

平成 26 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス					
教科目名	地理	担当教員	高橋幸仁		
学年学科	1 年 MED 学科	通年	必修	2 単位	
学習・教育目標	(A-1) 100%				
授業の目標と期待される効果： 私たちが生きる現代世界には、国や地域によるさまざまな特殊性が見られる反面、地形や気候などの自然環境、政治的・経済的な原則や機構等の社会環境には、共通性もある。 本授業では、現代世界を地理的に考察するための基礎・基本となる知識や技能、分析するための概念や理論を理解・獲得する。そして、実際に地域を分析することで、それらの知識・技能・概念を活用する。これらの学習を通して、現代世界の各地域の共通性や特殊性を主体的に考察できる能力の育成を目指す。 また、とくに課題への取り組みを通して、今日の私たちが直面している社会的問題について、地域性を踏まえた根拠のある自分なりの意見を表明できるようになることも目指す。 ① 中心的都市名と地理的事象・用語の理解 ② 基本的な地理的法則や地理的理論の理解 ③ 地理的事象における問題の考察 ④ 地理的技能の習得と活用 ⑤ 課題への取り組みや論述能力の向上		成績評価の方法： 前期：中間試験 100 点・期末試験 100 点・通常課題 40 点・学習態度 20 点・夏季課題（準備と提出）40 点 後期：中間試験 100 点・期末試験 100 点・通常課題 40 点・学習態度 20 点・夏季課題（体裁と内容）40 点 学年：前・後期の評定を合計し、600 点満点中の得点率により成績評価を行う。 ※学習態度は、前期・後期に提出するノートの内容等で判断する。 達成度評価の基準： 以下の要素について試験に出題し、6 割以上の正答レベルまで達していること。なお成績評価への重みは、①～⑤を各 20%とする。 ①【地理的認識 1】地名、国名、地理的用語などの基本的な知識について答えることができる。 ②【地理的認識 2】地理事象を分析するための概念や理論について理解することができる。 ③【地理的認識 3】ある地域事例を手がかりに、現代社会が直面している社会的な問題の原因や現状を理解することができる。 ④【地理的技能】各種地図、グラフ、統計資料などからデータを読み取り、要求された情報を答えることができる。 ⑤【レポート作成】ある地域事例を手がかりに、現代社会が直面している社会的な問題についての自分の意見をまとめ、それを論理的に表現することができる。			
授業の進め方と留意事項： 各回の授業では、教科書（地図帳も教科書である）やワークなどの教材を多用して実施する。どのような内容について展開されているのかの大枠を把握して、個々の要素の位置づけを明確にしていく。 ノートは、前期・後期の中間試験時に回収して点検し、学習態度の重要な判断資料とする。 通常課題は、問題演習等により内容理解の深化を求めるので、重視すること。 夏季課題は、長期の取り組みとなるので、全体の流れを適切に把握して、現在の進行位置を見失わないようにする。					
教科書および参考書： 教科書は『新詳地理 B』（帝国書院）、及び『新詳高等地図』（帝国書院）を使用する。 副教材としては『新詳地理 B ワーク』（帝国書院）を使用する。					
授業の概要と予定：前期					
第 1 回：地理を学習するにあたって					
第 2 回：地図とその利用					
第 3 回：地図と地域調査 (夏季休業後最初の時間に) 作品提出					
第 4 回：地域調査の実例					
第 5 回：世界の大地形					
第 6 回：小・その他の地形					
第 7 回：地形図を読む					
第 8 回： 中間試験 (次の時間に) ノート提出					
第 9 回：世界の気候 1					
第 10 回：世界の気候 2					
第 11 回：世界の気候 3、日本の自然と生活					
第 12 回：環境問題					
第 13 回：世界の農林水産業 1					
第 14 回：世界の農林水産業 2					
第 15 回：世界の農林水産業 3、食料問題					
<p style="text-align: center;">期末試験</p>					
第 16 回：前期を振り返る（期末試験の解答解説など）					
授業の概要と予定：後期					
第 17 回：世界のエネルギー・鉱産資源					

